

marie claire

👉 marieclairejapon.com

26th January, 2023
No.169

New
You

新しい年、新しい自分

本サービスを利用した営利目的の活動行為、
あるいは本サービスを通じて入手した情報を
複製、販売、出版その他
私的利用の範囲を超えて使用する行為の
一切を禁止します。



Welcome to marie claire vol.169

職

人という言葉から、私たちはどんなことをイメージするでしょうか？

広辞苑で調べてみると、職人とは①手先の技術によって物を製作することを職業とする人のこと。大工、左官、指物師などを指す、とあります。また②中世の手工業組織であるギルド・座などで、親方の下で生産に従事する雇人、ともあります。

和英辞典で調べてみると、職人とは英語でcraftsman, artisan, worker という呼び方で表現されるとあります。

ラグジュアリーブランド業界でも最近とみに職人という言葉が使われています。また、このコラムでも何度か書かせていただいているのですが、ブランドがブランドたりうる必須条件の中に、歴史、物語、高品質の素材、そして「artisan work」、つまり高い職人技が含まれています。

昨年11月22日から27日の期間、京都の「京都市京セラ美術館」で「エルメス」の展覧会が開かれました。展覧会のタイトルは「エルメス・イン・ザ・メイキング」。「エルメス」のクラフトマンシップに宿る創造と革新に触れてもらおうという意図で企画され、2021年コペンハーゲンを皮切りに、世界各地都市を巡回している展覧会です。

京都が選ばれたのは、この地が日本の伝統的な技術を伝承し続けてきた、職人たちが数多く生きる街で、過去から現在、そして未来へと継承されるモノづくりの街でもあるからです。

「エルメス・イン・ザ・メイキング」展では、展示スペースが「クラフトマンシップの伝統と文化」、「すばらしき素材」、「モノづくりの地に宿る力」、「時」はエルメスの友」と4つの空間に分かれていて、「エルメス」の歴史と日常をつないでいます。

「エルメス」の職人たちが人々に長く愛されてきたオブジェを丁寧に作っていく様子や、世代を超えて愛用されるように、長年使われたバッグが手入れ・修理される様子も紹介されました。またスカーフの絵柄のための精巧なシルクスクリーン製版の作業や、多くの工程を経て革手袋が作られる様子、純白の磁器に緻密な作業で絵を描いていく様子、気の遠くなるような忍耐力でプレスレットにダイヤモンドをはめ込む作業など、日ごろはなかなか目にできないプロセスを間近で見ることができました。純白のガウンを着て、わき目も振らず、作業に没頭する職人の姿は、「artisan worker」という言葉がぴったりでした。

この展覧会のために「エルメス」の様々な製造部門の職人たちが、愛用の道具、素材、そして専門知識を携えて来日し、その技術の一端を我々に開示してくれていたのです。

内覧会にはフランスから「エルメス・インターナショナル」のオリヴィエ・フルニエ エグゼクティブ・バイス・プレジデントが来日。我々取材陣に、今回の展覧会の趣旨、目的などを説明してくれたのですが、そこででなるほどと思った職人にまつわる話をお伝えしたいと思います。

「エルメス」の全従業員数は約18,000人。そのうち職人は約6,000人、なんと約3分の1が職人なのです。そして今回のように海外で展覧会が開催されるときは、一般職には飛行機のエコノミー席がわりあてられますが、職人はビジネスクラスで移動するのだそうです。

つまりいかに職人たちを大事にしているかということが、このエピソードからだけでもわかるというものです。

「エルメス」が、いかに長く人々から支持され、その名声と価値を維持しながら、さらに高みを目指しているブランドであるか、その真髄を見た思いがしました。また展覧会で実際に働くその姿を見ることで、彼らの矜持、プライドもひしひしと感じられました。実際の作業を見せるというイベントで、職人たちはさらに腕を上げ、仕事に誇りを持つことになるのだらうと想像できたのです。彼らはただ高い技術を持っているだけではなく、アーティスト的な部分でも非常に優れた能力を持っています。そんな職人たちが作り上げるからこそ、高い品質の、アート作品のような商品が生まれてくるのだということを改めて実感しました。

日本では、特に伝統工芸の世界では後継者不足が大きな問題になっています。もちろんフランスでも同様のことが問題になっています。またこれからの時代はAIが職人に取って代わるのではないとも言われたりしています。しかしフランスのラグジュアリーファッション産業は国の経済の重要な部分を占めているので、何とか職人の持つ技術やアーティスト的な部分を継承していくために、いろいろな手を打ち始めています。職人を育てる学校の設立や、雇用の確保、雇用形態の改善などがそれです。「エルメス」はその先頭を走る企業の一つだと改めて思われた展覧会でした。

2023年1月26日

Katsuto Tai
田居克人

Katsuto Tai, marie claire 編集長

marieclairejapon.com



Welcome to Our Site!

Contents

- 4 Style Picks: Pale Mood /
- 5 Welcome to marie claire /
- 6 Cover Story: Margot Robbie /
- 8 HARRY WINSTON /
- 9 GUERLAIN /
- 10 Wellendorff /
- 11 Chocolate: Heartwarming Valentine /
- 12 CHRISTIAN DIOR DESIGNER OF DREAMS /
- 14 Osaka MIDORI LIFE: Umekita 2nd Project /
- 15 News: event / special lecture & exhibition, shop list

cover

photo: ©Josh Telles/AUGUST/amanaimages

marie claire

2023年1月26日発行 第12巻 第1号 (通巻169号)

発行人 Publisher: 安部順一 Junichi Abe

編集長 Editor in Chief: 田居克人 Katsuto Tai

副編集長 Deputy Editor in Chief: 高橋直彦 Naohiko Takahashi

アートディレクター Art Director: 木村裕治 Yuji Kimura

ビジネス スペシャリスト Business Specialist: 齊賀明宏 Akihiro Saiga

編集部 Editorial Team: 部長 Manager: 横山恵子 Keiko Yokoyama

大林理子 Riko Obayashi
高波麻奈美 Manami Takanami
菊池美裕紀 Miyuki Kikuchi
阿部未祐加 Miyuka Abe
マルチン・ヤルホストツェグ Malchinbayar Khostsetseg

パリ特派員 Paris Correspondent: 須山佳子 Keiko Suyama

デザイン Design: 木村裕治 Yuji Kimura
佐藤 幹 Miki Sato

発行 Publication: 読売新聞東京本社
〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
tel: 03-67-89-6303
THE YOMIURI SHIMBUN

記事制作 Production: 中央公論新社
〒100-8132 東京都千代田区大手町1-7-1
tel: 03-5289-1810
CHUOKORON-SHINSHA, INC.

印刷 Printing: 共同印刷
KYODO PRINTING CO.,LTD

MARIE CLAIRE INTERNATIONAL

Executive director: Jean de Boisdeffre

Deputy director: Felix Droissart
Deputy director (marketing and special operations): Nicia Rodwell
International editorial director: Séverine Harzo

International fashion and beauty chief editor: Sylvie Halic

International commercial director: Elodie Bretauudeau Fontelles

International deputy commercial director: Elisabeth Barbier

Syndication director: Thierry Lamarre

©MARIE CLAIRE ALBUM 2023
©THE YOMIURI SHIMBUN 2023
本誌掲載の広告写真、イラストの無断転載を禁じます。
※本紙に掲載されている商品の価格は特記されている場合を除き、すべて税込価格です。

双子座 gemini 月21日→6月21日★自由になる時自分の軸から少しブレた選択や行動をしてみましょ。生産性がなくても興味があるその気持ちを大切に好きを世界観にトリップしてみ。忘れていたことが実現します。

牡牛座 taurus 4月20日→5月20日★楽しい方を選ぶ時、今迷っていることがあれば、ラクな方よりも、楽しそうでチャレンジングな方を選びましょ。不安な気持ちが出てきても大丈夫。すべてはうまくいっています。



Pale Mood

パールカラーを軽やかに纏って春支度

Style Picks
realization: Maki Kimura

ヴァイッドカラーが人気継続の一方、今春の最注目カラーは優しく上品な「パール」。新作はもちろん、定番アイテムもパールカラーを選べば、トレンド感が一気にアップ。

- 1.Chanel グリーンとピンクのダブルカラーが春先にぴったり。同系色を編み込んだチェーンもポップ。バッグ[W19×H15×D6] ¥697,400 [予定価格] (シャネル/シャネル カスタマーケア)
- 2.Louis Vuitton パフィーな質感がアイコニックな人気バッグはパールイエローでスタイリングのアクセントに。バッグ「クッサン PM」 [W26×H20×D12] ¥638,000 [予定価格、2月中旬発売予定] (ルイ・ヴィトン/ルイ・ヴィトン クライアントサービス)
- 3.Dior アイコンバッグも今季はパールトーンをセレクトして、軽やかにトレンドを取り入れて。バッグ「レディ ディオール」 [W20×H16.5×D8] ¥705,000 [予定価格] (ディオール/クリスチャン ディオール)
- 4.Chloé 旬のスプリングコートを選ぶならレザートリミングが印象的なクリームタッチのカラーに決まり。コート¥645,700 (クロエ/クロエ カスタマーレレーションズ)
- 5.Jil Sander シルバーカラーをあしらったバンブーハンドルが、グリーンな雰囲気のパールブルーにピュアさをプラス。バッグ「ゴジ スクエア バンブー」 [W18×H20×D9] ¥368,500 (ジル サンダー バイ ルーシー アンドルーク・メイヤー/シルサンダー・ジャパン)
- 6.Fendi ボリュミーなプラットフォームサンダルは、トレンドカラーのライムグリーンで今季顔に。靴 [H9.5] ¥132,000 [予定価格、3月発売予定] (フェンディ/フェンディ・ジャパン)
- 7.Sportmax テックサテンやベルベット、レースなど素材ミックスをパールトーンで仕上げた春ドレス。ランジェリーライクな軽さも気分。ドレス¥378,400 (スポーツマックス/マックスマラー ジャパン)
- 8.Valentino Garavani 定番シューズもトランスペアレントなストラップとパールピンクで今っぽく。靴「ロックスタッズ」 [H10] ¥165,000 (ヴァレンティノ ガラヴァーニ/ヴァレンティノ インフォメーションデスク)
- 9.Loewe 上品で軽やかなブルーの色合いが春先のスタイリングと好相性。バッグ「ハンモック バッグ」 [W13.5×H25×D30] ¥385,000 (ロエベ/ロエベ ジャパン クライアントサービス)

蟹座 cancer 6月22日→7月22日★自分を愛する時自分の魅力は、頭点や欠点からではなくて生まれましょ。そこを隠さずてなくオープンにするからこそ、必要な人との出会いやチャンスはやってきて、自然体のあなたでいられるのです。

牡羊座 aries 3月21日→4月19日★今を楽しむ時。丁寧に食事をとったり、好きなものを飲んだりしましょ。自分を気にかけて大切にすることで肯定感が高まり、周りも自分を大切にするようになり、望む現実を引き寄せられます。

天秤座 Libra 9月23日~10月22日★自分の幸せを強化する時。誰かが自分を幸せにしてくれるわけはありませんが、誰かを通して、式つきや信頼は生まれます。感謝の思いを伝えていくうちに、望む現実が現れてきます。



昨年12月に開催された「バビロン」のワールドプレミアに出席したマーゴット・ロビー。「アライア」の2023年春夏コレクションの大胆な黒のラップドレス姿で登場 ©2022 Paramount Pictures. All Rights Reserved.

Margot Robbie

体当たりの演技でトップ女優への階段を駆け上がる
マーゴット・ロビー

Cover Story
text: Tomoko Kawakami

オーストラリアのテレビドラマでデビューして以来、着実にキャリアを積んできた女優、マーゴット・ロビー。

2017年には『アイ、トーニャ 史上最大のスキャンダル』で第90回アカデミー賞主演女優賞候補に。

そんな実力派のマーゴットが出演する最新作『バビロン』は、第80回ゴールデングローブ賞5部門にノミネートされ、作曲賞を受賞した。

ハリウッド黄金時代の狂乱と墮落を描いた話題作について、マーゴット・ロビーが自身の熱い思いを語った。

乙女座 Virgo 8月23日~9月22日★美学を貫く時。自分の中にある譲れないモノやコト。これらに対して今は諦めずに取り組んでいきましょう。疲れたら力を抜きながらリセット。ひらめきは形になります。

獅子座 Leo 7月23日~8月22日★素晴らしいものが返ってくる時。相手に対して期待や要求を抱きがちですが、そんな自分に気づいたら、愛することに意識を向けましょう。普段の心遣いや誠意が、あなたのもとに返ってきます。

舞 台は1920年代、黄金期のハリウッド。サイレント映画から、トーキー映画へと移り変わる激動の時代を描いた話題の映画『バビロン』が2月に公開される。監督を務めるのは、『ラ・ラ・ランド』(2016年)で第89回アカデミー賞にて監督賞など6部門を受賞したデイミアン・チャゼルだ。15年にも及ぶリサーチと世界観の構築の末に生まれた『バビロン』で脚本の執筆も手がけたチャゼル。物語に命を吹き込むために最初にキャスティングしたのが、劇中で力強いオーラを放つ「ショービジネス界で成功を夢見る無名の女優、ネリー・ラロイ」の役を演じる、マーゴット・ロビーだった。初めて脚本を読んだとき、これまでにないほど衝撃を受けたというマーゴットは「ネリーは絶対に、私が演じたいと思った」と語っている。

現在、ハリウッドで最もギャラが高い女優と言われているマーゴット・ロビーはオーストラリア・ゴールドコーストで生まれ育った32歳。大学卒業後、女優デビューを果たし、オーストラリアのテレビドラマに出演して人気者に。その後、マーティン・スコセッシ監督の映画『ウルフ・オブ・ウォールストリート』(13年)で主演のレオナルド・ディカプリオの相手役に抜擢され、若手注目女優の仲間入りを果たした。さらにコミックスが原作の大ヒット映画『スーサイド・スクワッド』(16年)のハーレイ・クイン役で世界的にブレイクする。その際立つ存在感で、ファッション界からもラブコールが絶えないマーゴットは、「シャネル」のアンバサダーも務めている。そんな彼女が「ネリーの役は私のものよ!」と力説した最新作『バビロン』は、彼女にとっても特別な作品になったようだ。

「この作品は、これまで誰も試みなかった方法で、映画史の本当の変遷を描いている。誰もこんな形で当時のハリウッドを切り取った人はいなかった。私自身も、リサーチをして本当に驚いたわ。だって20年代はもっときちんとしていて、皆でチャールストンを踊っていて……というイメージだったし、スクリーンではそうやって描られてきたのだから。でも実際は、とても破天荒で放蕩的な時代だった。まさにワイルド!こんなこと許されるの?って思うようなものがスクリーンに映し出される。現代の映画界なら、到底無理よ。あんなことはできないわ!」

そのマーゴットが言う「ワイルド」な時

代のハリウッドで成功するために、脇目もふらず猛烈な勢いで突進していく女優志望のネリー。そのキャラクターは、数多のサイレント映画スターたちが着想源となっているが、中でもマーゴットはクララ・ボウという名の女優の人生がネリーのイメージと重なった、と振り返っている。

「クララは、貧しい境遇で受けたトラウマや虐待など、ひどい子ども時代を過ごした人。彼女の両親は、クララが生きながらえるとは予想していなかった。そんな事実を知ったとき、ネリーというキャラクターが理解できた気がしたの。ネリーは、この地球で過ごす日々は、いつ終わってもおかしくないと感じていたから、毎日、全力で立ち向かっていたのだ」

ハリウッドの狂乱の日々を疾風のごとく駆け抜けたネリーを演じるにはパワーが必要だったとも彼女は言う。

「この作品における最大の挑戦は、ネリーであるためのスタミナを維持することだった。彼女を演じることはとても疲れるけど、やり切れると思ったわ。1日20時間働き、すべてのシーンで即興を要求してくる監督との仕事も経験済みよ。あらゆる仕事をしてきたし、私はこの仕事が好きだから、弱音を吐くことはない。そんな私でさえ、ネリーは今までの一番、難しいキャラクターだった。だからこそ、出演した価値もあったし、私の生涯、そして経歴の中で最も誇りに思える仕事になったんじゃないかしら? チャゼル監督は自由に演じさせてくれた。それはネリー役だったからかもしれないけど、初めて本当の意味でアクセルを全開にするチャンスを与えてくれたことに感謝してるわ」

この作品では、『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ハリウッド』(19年)以来となるブラッド・ピットとの共演も話題を呼んでいる。

「私はブラッドの大ファン。彼はすべてにおいて特別で、この作品でも異彩を放っている。実生活でも映画スターのブラッドが劇中でもそれを演じる。俳優が俳優を演じる舞台裏を覗いたのは、とても素晴らしい経験だったわね」

今後もバービー人形の実写版映画『Barbie』や『オーシャンズ11』シリーズの最新作など、話題作への出演が目白押し。そのマーゴットから目が離せない。



『バビロン』
2023年2月10日(金)公開
監督・脚本: デイミアン・チャゼル
出演: ブラッド・ピット、マーゴット・ロビー、ディエゴ・カルバハカ
配給: 東和ビクター
公式サイト: babylon-movie.jp
©2022 Paramount Pictures. All Rights Reserved.

射手座Sagittarius 11月22日~12月21日★望みを叶える時。意識的にいい気分になる方を選択して過ぎましょ。自分をいったん手放し、ネガティブな感情も受け入れて、リラックスする。望みは叶っていくぞ。



李洪波のアートピースとのセットは世界15個限定 (¥880,000)



「オーキデ アンペリアル ブラック クリーム (リミテッド エディション)」 50mL [李洪波サイン付き、世界1000個限定] ¥193,600 / ケラン

1828年フランスで創業したケラント、1863年フランス・リモージュで創業のベルナルド。5代続くそれぞれのメゾンが伝統と革新を追求し、現代アーティスト李洪波との夢のコラボが実現。



GUERLAIN

仏老舗磁器メーカー・ベルナルドと現代美術アーティスト李洪波とのコラボ。「オーキデ アンペリアル ブラック」から究極のアートピースが誕生!

photos: ©GUERLAIN / text: Keiko Suyama

ケランのスキンケアラインの中でも最高峰に位置する「オーキデ アンペリアル ブラック」は、ケラン独自の蘭の研究機関「オーキダリウム」で15年以上に及ぶ研究により2016年に誕生した。その鍵を握るのは3万種の蘭の中から厳選された「ブラック オーキッド」という南米ペルーのアンデス山脈に原生する希少な固有種で、ほぼ日光がなく高温多湿の過酷な環境の中で育ち、黒檀の木のような美しい色を放つ野生の蘭だ。一年に2週間しか花を咲かせず、1本の茎に雄花と雌花を同時につけるという特徴のブラック オーキッドは、環境に対する繊細さと優れた適応能力、並外れた免疫力と高い生命力を持っている。このブラック オーキッドの力をブラック イミュン™テクノロジーに封じ込めた「オーキデ アンペリアル ブラック」は、エイジングのサインに働きかけ、肌に湧き上がるような若々しさをもたらす。肌の底力を高め、揺るぎない美しさに導いてくれるのだ。

この最も高機能なスキンケアラインは、その中身だけでなく、パッケージにも真のラグジュアリーを追求。美しい漆黒のジャーは、リモージュで19世紀に創業の老舗磁器メーカー・ベルナルドが手掛ける。かのナポレオンを始め、ヨーロッパの宮廷で愛用されたベルナルドは、現在でもレストランや食卓に美しい作品を提供し、「オーキデ アンペリアル ブラック」の

ジャー制作をすべて担当する。今回のコラボレーションでは「オーキデ アンペリアル ブラック クリーム」のジャーに24金の金箔を用いた花模様を描き、1つに1ヵ月の時間をかけ、50人の職人が関わり作られる。さらにこのクリームを芸術へと昇華させたのが、中国人アーティスト李洪波 (Li Hongbo)だ。世界的に知られる現代美術アーティストの李の作品は、中国の民芸品である「紙でんぐり」からヒントを得て、紙を丹念に切り、それを重ね合わせ、まるでだまし絵のように形が変形する彫刻アートとして注目されている。今回は白い紙を何千枚も蜂の巣状に重ね、糊で固め、彫刻機で輪郭を磨き、小さな彫刻刀で細部を丁寧に仕上げ、完成に1、2ヵ月を要した。自在に変形する紙の特徴を生かし、まるでアコーディオンのように彫刻が伸び縮みするアート作品が自宅でも楽しめるのだ。

ベルナルドによる24金の金箔が施されたジャーと、李洪波のアートピースを含めたセットはシリアルナンバー付きで世界15点限定で発売中。まさに芸術を秘めた装いのスキンケア、「オーキデ アンペリアル ブラック」。伝統工芸とアート、スキンケアが融合するケランだからこそできる真のラグジュアリーの世界をぜひ体験してみてください。



「オーキデ アンペリアル ブラック トリロジー コフレ」 [左からオーキデ アンペリアル ブラック セラム 30mL、同 クリーム 50mL、同 アイ&リップ 20mL、李洪波サイン付き、世界500個限定] ¥469,700 / ケラン



1.繊細な筆で24金を丁寧に着色するのは、芸術文化勲章を受章したベルナルドの元名工 2.李洪波が描いた蘭の下絵 3.李のアートピースとのセット版はシリアルナンバー入りで世界15個限定。李氏のサイン付き 4.あっと驚くアートを創り出す、今世界が目にする中国人アーティスト李洪波 5.彫刻刀で細部を丁寧に仕上げていく 6.できあがった彫刻作品はまるでアコーディオンのように伸び縮みする

蠍座Scorpio 10月23日~11月21日★自分の心に従う時。何かを始める時。今の喜びから一歩を踏み出すために、どんな自分も日々生活をしていく。心がかろく整います。



上品なホワイトと神秘的なブルーのマザー・オブ・パール、そしてダイヤモンドが奏でる洗練されたコンビネーションに魅せられる最新作のタイムピース。ホワイト・アリゲーター・ストラップがクリーンな印象を引き立てて。バックルにも15個のダイヤモンドがセットされ、細部にまでこだわり抜いたデザイン。時計「HW プルミエール・オートマティック 31mm」(左から) [WG×ブルー マザー・オブ・パール×ダイヤモンド、ホワイト・アリゲーター・ストラップ、ケース径31mm、自動巻き] ¥5,335,000 [RG×ホワイト マザー・オブ・パール×ダイヤモンド、ホワイト・アリゲーター・ストラップ、ケース径31mm、自動巻き] ¥5,192,000 (ともにハリー・ウィンストン/ハリー・ウィンストン クライアントインフォメーション)

HARRY WINSTON

ダイヤモンドとマザー・オブ・パールの美しき共演 新たな時を刻む「ハリー・ウィンストン」のタイムピース

世界屈指のダイヤモンドジュエラーとして名を馳せる「ハリー・ウィンストン」が、1989年に発表した初のタイムピースコレクション「HW プルミエール」。登場以来、高い人気を誇るそのアイコン的なコレクションから、このほど最新作が誕生。ダイヤモンドとマザー・オブ・パールの輝きが調和する優美なタイムピースで、新しい年の始まりをポジティブに彩って。

photos: ©HARRY WINSTON RG=ローズゴールド、WG=ホワイトゴールド



ホワイト・アリゲーター・ストラップのほかに、シンプルなゴールド製プレスレット、348個のダイヤモンドをセットしたラグジュアリーなプレスレットのタイプも用意されている。時計「HW プルミエール・オートマティック 31mm」(左から) [RG×ホワイト マザー・オブ・パール×ダイヤモンド、RGプレスレット、ケース径31mm、自動巻き] ¥7,513,000 [RG×ホワイト マザー・オブ・パール×ダイヤモンド、RG×ダイヤモンドプレスレット、ケース径31mm、自動巻き] ¥12,771,000 [WG×ブルー マザー・オブ・パール×ダイヤモンド、WGプレスレット、ケース径31mm、自動巻き] ¥7,953,000 [WG×ブルー マザー・オブ・パール×ダイヤモンド、WG×ダイヤモンドプレスレット、ケース径31mm、自動巻き] ¥13,211,000 (すべてハリー・ウィンストン/ハリー・ウィンストン クライアントインフォメーション)

ジュエリー制作で培われた高度な技術や創造性を生かし、「ハリー・ウィンストン」は時計製造においても傑出した製品を世に送り出してきた。「HW プルミエール」は、ブランド初のタイムピースコレクションのひとつとして1989年に誕生。コレクション名は、創始者のハリー・ウィンストンが最初のビジネスとして1920年に設立した「プレミアダイヤモンド社」にちなんで名付けられた。ニューヨーク5番街に位置する「ハリー・ウィンストン」本店のエントランスに着想を得た3つのアーチがラグにデザインされ、ケースには厳選されたダイヤモンドが贅沢にあしらわれているのが象徴的だ。ブランドのアイコンとして進化を続け、これまでも独創性溢れる多彩なモデルを発表し続けてきた。

最新作の「HW プルミエール・オートマティック 31mm」は、マザー・オブ・パールの文字盤に、エングレービングの装飾技術によって放射状のラインが刻まれ、燦然と輝く太陽の光を思わせる美しい表情に目を奪われる。ローズゴールドのケースにホワイト マザー・オブ・パール、ホワイトゴールドのケースにブルー マザー・オブ・パールを組み合わせた2タイプが登場した。ブルーは「ハリー・ウィンストン」と深いつながりのあるカラーでもある。創始者が19

49年に獲得した45.52カラットの希少なブルーダイヤモンド「ホープ・ダイヤモンド」を思い起こさせるカラーとして、今回の新作にも深いブルーのマザー・オブ・パールが採用された。そしてダイヤルを埋め尽くす126個もの思いダイヤモンドにも、「キング・オブ・ダイヤモンド」と称された創始者の軌跡への敬意が込められているという。中央にランダムに配されたスノーセティングのダイヤモンドは、まるで星空のような印象を与え、遊び心をプラス。12時位置には、創始者が愛したエメラルドカットのダイヤモンドがあしらわれ、シンボリックな輝きを放つ。エレガントな佇まいの気品漂う新作タイムピース、ぜひ手に取ってその魅力を堪能してほしい。



華やかなデザインだけでなく、搭載されたスイス製の自動巻きムーブメントにも、「ハリー・ウィンストン」の細部に及ぶものづくりを追求する姿勢が反映されている。耐磁性、耐腐食性、耐衝撃性に優れた高性能なムーブメントを採用。サファイアクリスタルのケースバックから、その繊細なムーブメントと22Kローズゴールド製ローターの美しい動きを覗くことができる



photo: ©Yuto Kudo

空間デザイン: 重松象平 (OMA/パートナー)

建築家。1973年福岡県生まれ。1998年より建築、都市計画、文化分析に参画する国際的な建築設計事務所OMAに所属し、2006年にニューヨーク事務所代表、2008年にパートナーに就任。アメリカ大陸およびアジアのプロジェクト多数をリーダーとして牽引している。

各地の特殊性と掛け合わせて再考した革新的な空間

空間演出を手掛けたのは、国際的な建築設計事務所として知られるOMAのパートナーであり、ニューヨーク事務所の代表を務める建築家の重松象平だ。「パリを皮切りに、さまざまな都市の美術館で行ってきた空間デザインは、回顧展というフォーマットを各地の特殊性と掛け合わせながら再考し、展示会そのものを革新していくという刺激的なコラボレーションの連続でした」と重松は語る。日本文化へのオマージュが表現された今回のデザインには、「ディオール」を象徴する構造的なドレスのシルエットや日本のランドスケープからの影響も見られる。さらに1階と地下2階をつなぐ吹き抜けの大空間では、夜会をテーマに、上階と下階双方からの視点を意識した壮観な演出が目玉だ。「展示室ごとに異なるストーリーが展開される中、舞台美術を意識してデザインしました。未来を向いたこの回顧展が日本でどんな反応を得られるのか楽しみです」

photo: © Yuriko Takagi



ウイメンズ クリエイティブ ディレクターのマリア・グラツィア・キウリによる春夏 2020 オートクチュール コレクションよりLOOK#220のドレス

展覧会情報 CHRISTIAN DIOR: DESIGNER OF DREAMS 「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展

会期: ~2023年5月28日(日)
休館日: 月曜日
開館時間: 10:00~18:00 (展示室入場は閉館の30分前まで)
会場: 東京都現代美術館(東京都江東区三好4-1-1) 企画展示室 1F / B2F
観覧料: 一般 ¥2,000 / 大学生・専門学校生・65歳以上 ¥1,300 / 中学生以下無料
オンラインチケットは東京都現代美術館のチケットサイトにて購入可能 <https://www.e-tix.jp/mot/>
主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
特別協力: クリスチャン・ディオール クチュール
DIOR.COM 特設ページ <https://bit.ly/3V8GZMI>

「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展示風景 (2022年) 東京都現代美術館

photos: ©DAICI ANO



「ディオールと日本」がテーマの展示室。『蝶々夫人』や桜など、日本文化にインスパイアされたオートクチュール作品がずらり



グレース・ケリーやナタリー・ポートマンなど、世界的スターが纏ったドレスに焦点を当てた「ディオールのスターたちとADORE」の展示



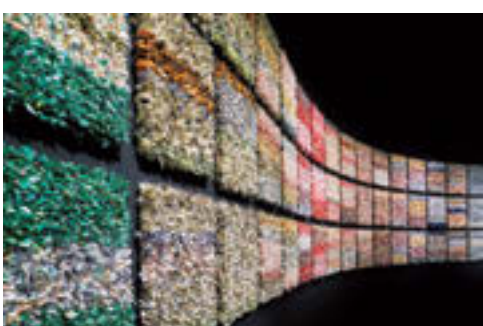
高木由利子が撮り下ろしたドラマティックな写真を背景に、歴代クリエイティブ ディレクターによる作品を時代ごとに紹介



日本庭園をイメージした空間には、花々をモチーフにした優雅でロマンティックなウイニングドレスが集結



メゾンを象徴する構造的なシルエットのドレスやテーラリングのトリックを壁一面にディスプレイ。高度なクチュールテクニックを堪能



約1,000枚の「ディオール」のスクーフを使ったマダガスカル人アーティスト、ジョエル・アンドリアンメリアンの作品が色彩と呼応



帽子やジュエリー、シューズ、ミニチュアドレスなどを、虹のように色別に展示した遊び心あふれるインスタレーション



ギリシャからエジプト、インド、そして日本に至るまで、世界各国の文化にインスパイアされたクリエイションの旅がテーマの展示室



現代アーティストとのコラボなどで再解釈された希少なアイコンバッグ「レディ ディオール」が壁や天井を覆い尽くす

プロジェクションマッピングを投影した吹き抜けのアトリウムには、壮麗な舞踏会をイメージしたウイニングドレスを圧巻のスケールで展示
photo: ©DAICI ANO



CHRISTIAN DIOR DESIGNER OF DREAMS

「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展へ

連載1: 世界巡回展がついに東京で開幕

東京都現代美術館で開催中の「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展が話題を呼んでいる。パリを皮切りに、ロンドン、上海、ニューヨークなど、世界各地を巡回してきた壮大な回顧展。1,000点を超える貴重なアーカイブ作品とともに、「ディオール」と日本が育んできた深い絆を称える特別な展覧会の見どころを紹介。

text: Makiko Awata

創

設者クリスチャン・ディオールの先駆的なビジョンから始まった75年もの創造の軌跡と、メゾンに影響を与えた日本文化へのオマージュを掲げ、フロランス・ミュラーのキュレーションで再考された「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展。会場はテーマ別に13の展示室で構成されている。1947年に発表しファッション史に革命を起こした「ニューロック」を象徴する「バー」スーツに始まり、ムッシュ・ディオールの情熱を引き継いだイヴ・サンローラン、マルク・ボアン、

ジャンフランコ・フェレ、ジョン・ガリアーノ、ラフ・シモンズ、マリア・グラツィア・キウリといった歴代のクリエイティブ ディレクターによるオートクチュールが一挙に展示され、メゾンの過去と現在を振り返るといふ壮大な内容だ。最大の見どころのひとつは、メゾンと日本の特別な関係をひもとくセクションだ。日本に進出した初の西洋ファッションブランドとして、「ディオール」は1953年に鐘紡および大丸と契約を結び、同年に帝国ホテルでファッションショーを開催。その当

時に発表された作品や、葛飾北斎の浮世絵をモチーフにしたジョン・ガリアーノによる作品、マリア・グラツィア・キウリ初の東京でのオートクチュールショーで披露した「ジャルダン ジャポネ」ドレスなどにスポットライトが当てられた。両者の間で交わされた手紙やスケッチ、日本各地で行われたショーの資料など、初公開となる貴重なアーカイブ資料も必見だ。会場の随所には、日本人写真家・高木由利子が本展のために撮り下ろした作品がちりばめられ、詩豊かな日本の美

意識を表現している。各展示室のテーマに合わせて厳選された、東京都現代美術館所蔵の美術作品も注目だ。日本庭園をイメージした空間では、柴田あゆみによる藤の花の切り絵が天井を覆い尽くすなど、圧巻のインスタレーションにも目を奪われる。「ディオール」のクリエイションに影響を与えた日本文化とその関係性をひもとく本展。観るものを夢の世界へと誘う壮観な空間で、「ディオール」の伝統と歴史を体感したい。

